



念じられ 照らされて

正義という名の魔物

三島多聞

過日（5月）、テレビを見て驚きました。アメリカの街路での暴行シーンです。黒人女性がアジア系の女性二人に暴力をふるっていた動画です。白人が黒人を差別し暴力行為をする事件はたくさんあります。黒人を白人の下に見ている人種差別です。

ミネソタ州で白人警察官が、顔色ひとつ変えず当然のごとく黒人男性の首を膝で押さえつけ、8分46秒もかけてじりじりと窒息死させた。世界中にその動画が放映されました。黒人を全く人と見なしていませんでした。黒人の人権を強く支持していた私はがっかりしま

した。アジア系の人たちへの暴力は、コロナ感染でトランプ大統領が、「武漢ウイルス」と暴言を吐いた影響だと思いましたが、黒人女性のアジア系女性への暴力は私の想像を超えていました。白人の差別や暴力を受けて、その痛みを強く持っているはずの黒人がどうしてアジア系の人たちに白人と同じように暴力をふるうのか。一体どういうことなのか。

黒人は黄色人種（日本人も当然対象）を自分たちより下に見ているのか、と思った瞬間、「黒人の野郎！」とカチンと頭にきました。と同時に理性が復活して、肌の色で人

立つ時、行動が（身体的でも、言語的でも、意識的でも）暴力になるということ。ネット上での誹謗中傷は、どの立ち位置から送信しているのか考えると、自分は正義であるというところから他者を非難し排斥し、差別している。多くの中傷を受けて自殺した人がいました。個人個人からの正義の中傷メールが堪え難いものになったのでしょうか。また、コロナ感染でも、それぞれが正義に立つから、いつの間にか自主警察官になるのでしょうか。今のところ一つの見解を持ちました。それは「正義とは、人間を正義に立たせないことである」と。別言すれば自他共に「人としての痛みを感じることが正義である」と痛感しています。

この「いのちの痛み」ということをどう受けとめたいのか。私には重い課題です。荷いかなる。そう感じた時にわかに口に出たのはお念仏でした。そして改めて気づき直しました。如来大悲」ということです。私に先立って、私とともに如来自身のいのちの痛みが弥陀大悲の念仏となって私を包みました。



＜略歴＞
1944年、高山市生まれ。京都外国語大学卒業。大谷大学大学院仏教学修士課程仏教学専攻修了。台湾師範大学研究院留学。中村久子女史顕彰会代表。元本山内局参務。高山別院輪番。

別院定例法座		午後1時から
3日 三日のご坊		28日 親鸞聖人ご命日法座
7月	講師 畑 亮徳氏 （願徳寺住職）	講師 江馬 雅臣氏 （賢誓寺副住職）
	講題 「仏教における善悪とは何か」	講題 「いのちのあたたかさ」
8月	飛騨学場 午前9時から 【本講】1日～3日 藤場 俊基氏 【次講】4日～5日 草野 顕之氏	講師 達 顕信氏 （岐阜高山教区高山教務支所主事補） 講題 「従果向因」

夏の日々天講座

於：高山別院 午前6時30分から

8月	
1日	藤場 俊基氏 （金沢教区・常讃寺住職、本講講師） （日）「念仏の音が聞こえる関係 一真宗門徒の原風景」
2日	三島 多聞氏 （別院輪番） （月）「死と再生」
3日	中村 隆夫氏 （高山市在住元教師） （火）「めでた雑考」
4日	草野 顕之氏 （元大谷大学学長、次講講師） （水）「親鸞聖人の伝承」
5日	休 会

飛騨学場から挑戦状

7月26日（月）挑戦券 500円

第1部 10:00～12:00

リアルスプラトゥーン

ごぼうハンターをやっつけろ！

対象：小学1年生～3年生



第2部 14:00～16:00

リアル脱出ゲーム

ごぼうのナゾをとときあかせ！

対象：小学4年生～6年生

募集
各30名

詳細・申込みはこちら



詳細ページ



申込ページ

間に生まれる「ケア」

私がグリーンケアの活動をしていると「グリーンケアする方法を知りたいです」というフレーズを聞くことがあります。「ケア」という

聞きたくなくなった」という話を聞かせてくれました。それはケアが必要なのは「弱い」立場と見られるような気がして、「ケアしてあげないといけない存在だ」と思われるのが嫌だということでした。この人の感覚というのは、特別めずらしいものではないように思えます。

私がこれまで生きてきて中でも一番しんどかった時、母親を亡くして3年後くらいに死にたいと思うほど辛い時期がありました。その際、頼らせてくれた友人は、ただただ大事に話を聴いてくれて、一週間ほど自宅に滞在させてくれました。「一緒にいてくれた」ということが私にとって「ケア」に感じられました。彼女は私を「ケアしよう」という意図を持って接していたわけではありません。目の前に苦しみを抱えた人がいる時、私たちにはその人の苦しみ自体をどうにかできるわけではなく、無力感を抱くかもしれません。でも彼女のように「いること」、存在

自体がケアになることもあります。「尾角さんは多くの方に寄り添ってこれたんですね」と言われることがあります。私が「寄り添う」ことをしようと思ったことも「ケアしよう」と思ったこともありません。寄り添うことも、ケアも、それは「された」と感じた人がいて初めて成り立つもので、いくらこちら側が「寄り添った」と思っている、相手が「寄り添った」と思ってもらったと感じていなければ成立しません。私にとっては「寄り添う」というのはなんだかおこがましいような気がして、使うことができない感覚を持っています。浄土真宗の教えを大切にされている方々と話すと、「寄り添うのは仏さまだけができることで、私たちはどこまでいっても他者に寄り添いきれないんだ」ということを聞きますが、私にも近い感覚があります。私は「立ち合う」といった感覚で相手の傍らにいて、とを大切にしてきました。相手が

自ら生きる力や希望を回復させていくのに立ち会ったとき、私も生きる力が生まれてくるように感じることがあります。こちらが「する側」、相手が「される側」と分けられるものではなく、ケアを間に生まれてくるものと捉えています。では「ただ、いるだけでいいのですか?」という疑問も湧いてくるかもしれません。私は相手の必要に応じてできることは行います。「グリーンサポート」と呼んでいます。お金の問題、就学困難、事務手続きなど、現実的な困りごとには、できる範囲で対応したり、対応できる人につながることをします。個別具体的にあり、解決可能なものが多いのが「サポート」だとすれば、なかなか解決し難い苦しみや痛みを抱えたその人の存在まるごと、と共にあることに「ケア」は立ち現れてくるものかもしれません。真宗僧侶であり、小児科医の梶原敬一先生は、「死にたい」とこぼす子どもに「また来週も〇〇くんと一緒に遊びたい」と返した、というエピソードを聞かせてくださいました。これも「ケア」なのではないかと感じました。相手の存在を必要とするということ、一緒にいたいという想いを伝えることが相手の生きる希望につながっていくこともあるのではないのでしょうか。こちらが相手に何かを差し出すのではなく、共にあるとするケア、相手との間に生まれてくるケアについて、皆さまの考えるきっかけになったのであれば嬉しいです。

次号の『ひだご坊』発行は9月1日となります。

「ケアする」「ケアされる」という関係をイメージするのは自然なのかもしれません。医療や介護、カウンセラーのように、専門的な支援の方法を身につけた人たちが、ケアを「提供する」といったイメージを抱かれる人もいます。今回は「ケア」とはどういうものなのか、改めて、読者の皆さまと一緒に考えてみたいと思います。福島でグリーンケアの活動をしてきた仲間の一人が、震災後に「震災の前までは自分も使っていたのに、『心のケア』という言葉

聞きたくなくなった」という話を聞かせてくれました。それはケアが必要なのは「弱い」立場と見られるような気がして、「ケアしてあげないといけない存在だ」と思われるのが嫌だということでした。この人の感覚というのは、特別めずらしいものではないように思えます。

私がこれまで生きてきて中でも一番しんどかった時、母親を亡くして3年後くらいに死にたいと思うほど辛い時期がありました。その際、頼らせてくれた友人は、ただただ大事に話を聴いてくれて、一週間ほど自宅に滞在させてくれました。「一緒にいてくれた」ということが私にとって「ケア」に感じられました。彼女は私を「ケアしよう」という意図を持って接していたわけではありません。目の前に苦しみを抱えた人がいる時、私たちにはその人の苦しみ自体をどうにかできるわけではなく、無力感を抱くかもしれません。でも彼女のように「いること」、存在

自ら生きる力や希望を回復させていくのに立ち会ったとき、私も生きる力が生まれてくるように感じることがあります。こちらが「する側」、相手が「される側」と分けられるものではなく、ケアを間に生まれてくるものと捉えています。では「ただ、いるだけでいいのですか?」という疑問も湧いてくるかもしれません。私は相手の必要に応じてできることは行います。「グリーンサポート」と呼んでいます。お金の問題、就学困難、事務手続きなど、現実的な困りごとには、できる範囲で対応したり、対応できる人につながることをします。個別具体的にあり、解決可能なものが多いのが「サポート」だとすれば、なかなか解決し難い苦しみや痛みを抱えたその人の存在まるごと、と共にあることに「ケア」は立ち現れてくるものかもしれません。真宗僧侶であり、小児科医の梶原敬一先生は、「死にたい」とこぼす子どもに「また来週も〇〇くんと一緒に遊びたい」と返した、というエピソードを聞かせてくださいました。これも「ケア」なのではないかと感じました。相手の存在を必要とするということ、一緒にいたいという想いを伝えることが相手の生きる希望につながっていくこともあるのではないのでしょうか。こちらが相手に何かを差し出すのではなく、共にあるとするケア、相手との間に生まれてくるケアについて、皆さまの考えるきっかけになったのであれば嬉しいです。

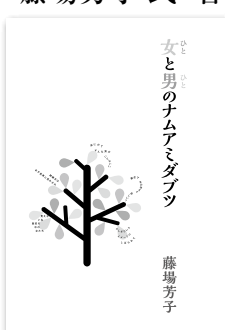
次号の『ひだご坊』発行は9月1日となります。

記事についてのお問い合わせは飛騨御坊真宗教化センターまで ☎(0577)32-0776

新刊のお知らせ

『女と男のナムアミダブツ』

藤場芳子氏 著



6判並製 126頁 価格：800円(税込)

コロナ禍に伴う 行事中止のお知らせ

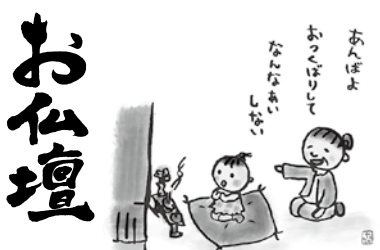
- ・7月11日 大谷婦人会 ※8月11日は開催します
- ・8月16日 ご坊夏まつり
- ・8月下旬 真宗本廟子ども奉仕団

ひだご坊 一口法話

URL: <https://hidagobo.jp/sermon/>

8月1日から31日の期間は 右の方々の法話を随時掲載してまいります。

- ・三島 多聞氏 (別院輪番)
- ・四衛 亮氏 (不遠寺住職)
- ・佐藤 義晃氏 (了徳寺住職)
- ・内記 洸氏 (往還寺副住職)
- ・江馬 雅臣氏 (賢誓寺副住職)



お盆セール 開催中 8/8(日)まで

花瓶など真鍮仏具、輝いていますか? 仏具磨き教室 7/11(日) 12月13(火) 午前・午後の部 各回3組 お電話でご予約ください

仏壇工芸 ほりお 高山市三福寺町369-7 TEL 0577-33-6686

ボックス・アイオー 「老いの福袋」 福口恵子著 あつぱれ!ころはめ先の知恵88 老いの福袋 絶賛発売中!! 福袋 TEL 0577-34-1766

池田電工 電気工事 岐阜県高山市塩屋町五五一四一六 ☎ 0577-34-1263

大谷婦人会 7月11日(日) コロナウイルス感染防止のため中止と致します。 8月11日(水) 午後1時から 定例法座 三島多聞別院輪番

こすぎACTのLINE始めました。仏具の修理、写真を撮ってLINEから見積り依頼。その他 ご質問などお気軽にお問い合わせください。 高山市本町3-60 TEL 0577-32-1745 FAX 0577-35-1630

建築写真・測量用の撮影・PR映像 ドローン空撮 高山市桐生町7-1503 有限会社リプロ TEL 0577-35-0630

保険タイム 〒506-0059 高山市下林町 916-1 ※ひだしん西高校前支店となり TEL 0577-35-1005

久寿玉 KUSUDAMA 平瀬酒造店 TEL 34-0010

慈愛・共なる灯り 高山電気工事株式会社

温度差でおこる 怖いヒートショック 寒いタイル貼の浴室をそのまま断熱リフォーム 暖かいお風呂で快適入浴 早くて安い [ユニットバスの半額程度] 今なら高山市のバリアフリー補助金が使えます (65歳以上の方がいる世帯、上限50万円) 50件以上の実績 『暖かくなった。』と喜ばれています お見積無料 まずはお電話下さい TEL 32-2577 高山市七日町3-102 (株)小林ベニヤ リフォーム部

相続 相談無料 河合亮一司法書士事務所 0577-35-5117 高山市初田町2-1-66

山都印刷株式会社 自主出版 編集・出版までお手伝い致します 高山市西之一色町二丁目九〇一八 TEL 0577-31-1495

お墓の新設 リフォーム クリーニング 墓じまい お墓のお悩み、ご相談ください。 ご相談・お見積り無料!! 墓石 石積み 建築石材 石工事各種 株式会社奥田石材 OKUDA 0577-33-9601 高山市新宮町2498-1(新宮小学校前)